

# 「雪またじ」開始式が行われました。

## 「歩道の雪またじ運動」つなぐ

飛騨高山高が発案、中山中で開始式



雪かきのデモンストレーションを行う生徒たち＝高山市下岡本町、中山中学校

飛騨高山高校（高山市）の発案から始まった、道沿いに設置されたスコップを使って歩行者が善意で雪かきをする取り組み

「歩道の雪またじ運動」の開始式が2日、同市下岡本町の中山中学校で開かれた。

「雪またじ」とは飛騨地

方の方言で「雪を片付ける」という意味。取り組みは飛騨高山高校が「歩道にスコップがあれば、困ったときに誰でも自由に雪かきが行える」という提案を受けて、国土交通省高山国道事務所が開始し、今年で16回目を迎える。スコップは国道41号沿いの15交差点34カ所に設置し、歩道の雪かきに使うことができる。

スコップなどの資材は、高山ライオンズクラブと建設業者でつくる飛騨三協防災対策協議会が提供。開始式では、同校1年生の野口恭史郎さん（15）から中山中学校3年の鈴木心晴さん（14）に「思いをつなぐ」意味をこめてスコップが手渡され、デモンストレーションとして生徒たちが、雪に見立てた発泡スチロールをかき上げた。

野口さんは（雪かきで）一人の力がかき集まれば大きな一かきになることを地域の人も知ってほしい」と運動の参加を呼びかけた。（市原萌子）